



LECIP

レシップ株式会社

2008年3月期 中間決算説明会

2007年11月28日(水)



目次

1. 事業内容

2. 2008年3月期 中間期 連結業績の概要

3. 重点課題・事業戦略の概要

4. 2008年3月期 通期の業績見通し



事業内容

輸送機器事業

S&D(サイン&ディスプレイ)事業

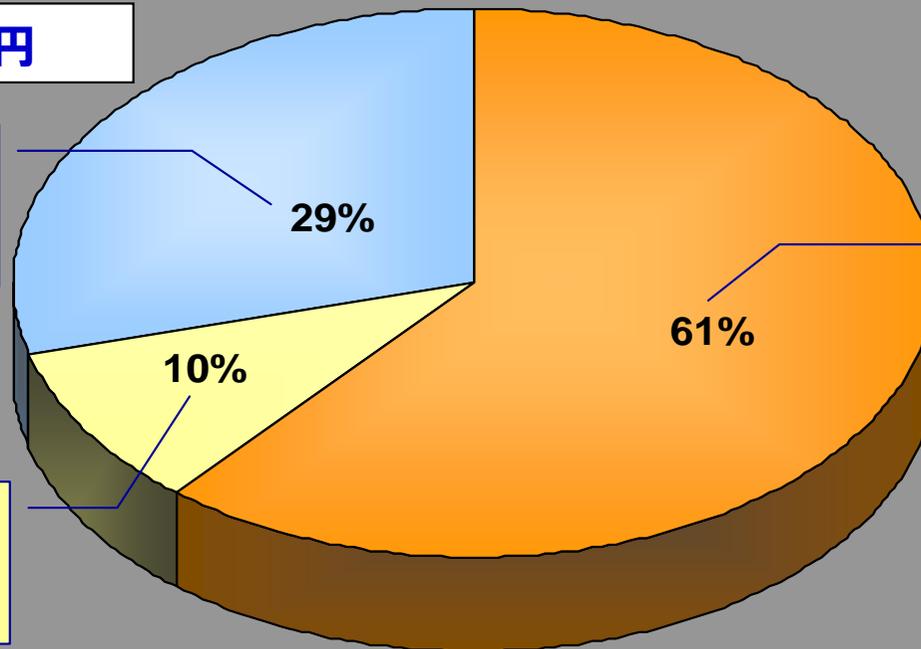
産業機器事業

【ご参考】前期07年3月期 通期の事業部門別売上高

連結売上高:17,572百万円

【産業機器事業】
充電器、無停電電源装置、
物販共用読み取り端末
プリント基板実装

【S&D事業】
ネオン変圧器、
屋外用電子安定器、
点滅調光コントローラ



輸送機器
S&D
産業機器

【輸送機器事業】
バス・鉄道用運賃箱、
カードシステム、表示機器
車載用蛍光灯具



事業内容

■ 輸送機器事業

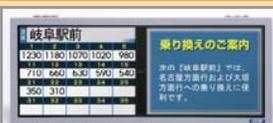
● バス市場向け製品



バス用運賃箱



ICカードリーダ



液晶表示器
(OBC VISION)



デジタル
運賃表示器



LED式行先表示器

- 国内唯一のバス用電装機器 トータルサプライヤー
- 当社の主力製品、多くの製品でトップシェアを獲得
- 拡大続く、バス用ICカードシステム
 - ☑ 首都圏をはじめ、全国のバス会社様へ拡販中

● 鉄道市場向け製品



ワンマン鉄道用
運賃箱



車内設置型ICカードシステム



車両用蛍光灯具

- バス搭載機器の技術を応用した鉄道市場向け製品群
- ワンマン鉄道用システム機器で、トップシェアを獲得
- 国内で初めて、車内設置型非接触ICカード
運賃精算システムを製品化

● 自動車市場向け製品



自動車用蛍光灯具



平面放電灯



冷陰極放電灯

- 自動車用蛍光灯具のパイオニア
- メーカー純正向け蛍光灯、市販向け蛍光灯で
トップシェアを獲得
- 環境への対応、機能面充実(薄型化)による差別化



事業内容

S&D事業

ネオン変圧器



巻線式



電子式



屋外蛍光灯看板用電子安定器

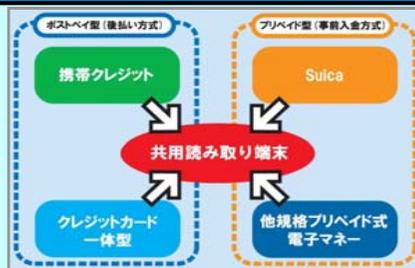


- 巻線式ネオン変圧器で、国内トップシェアを獲得
- 生産は、タイ現地法人で行い、販売は、国内のみならず、米国市場を中心に、海外へも展開
- 長年のネオン変圧器の開発技術をベースに、屋外蛍光灯看板用電子安定器を開発
 - ☑ 電子安定器の採用により、20%~30%の電力削減効果

産業機器事業



フォークリフト用充電器



物販共用読み取り端末



無停電電源装置



プリント基板実装ライン

- フォークリフト用充電器でトップシェアを獲得
 - ☑ 国内主要フォークリフトメーカー全てに納入
- 物販共用読み取り端末の開発・製造
 - ☑ Suicaを軸に、複数規格の電子マネーに対応
 - ☑ 前期2007年3月期・第4四半期より本格納入開始
- 連結子会社レシップ電子にて、プリント基板実装を展開



事業の特徴と強み

技術開発先行型

ニッチな市場分野に
特化

ニーズに対する
柔軟な対応

豊富な製品
ラインアップ



各事業分野で、トップシェアを獲得



目次

1. 事業内容

2. 2008年3月期 中間期 連結業績の概要

3. 重点課題・事業戦略の概要

4. 2008年3月期 通期の業績見通し



中間決算のポイント 前年同期比 増収増益



プラス要因



- バス用ICカードシステムの納入進む
- 物販共用読み取り端末の売上計上
※前期の第4四半期から本格納入開始

マイナス要因

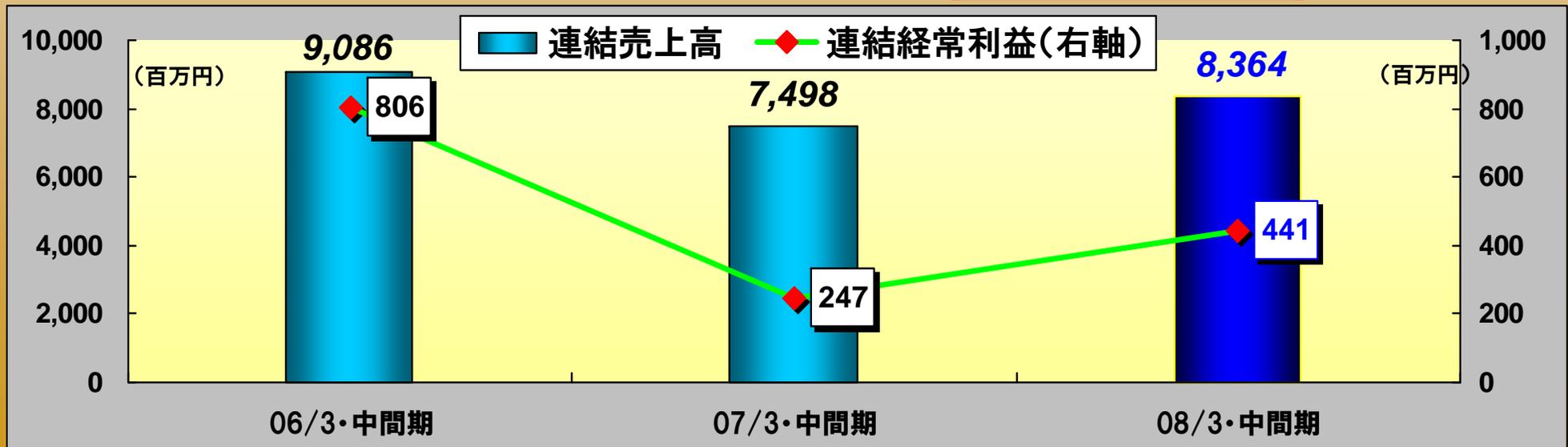


- 連結子会社レシップ電子のプリント基板実装、小型液晶パネル組立ての減少
- 銅価格の高止まり、パーツ高の進行
※S&D事業・ネオン変圧器の生産をタイで行っていることから、パーツ高の進行が利益を圧迫
- 会計制度変更に伴う、減価償却費負担増



2008年3月期 中間期 連結決算ハイライト

【連結】 中間期 業績概要	2007年3月期 中間期		2008年3月期 中間期					
	①前期実績 (百万円)	構成比 (%)	②5/15当初 業績予想 (百万円)	③10/26発表 業績予想 (百万円)	④当期実績 (百万円)	構成比 (%)	前期比増減額 ④-① (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	7,498	100.0	7,900	8,360	8,364	100.0	+866	+11.6
売上総利益	1,753	23.4	—	—	2,117	25.3	+364	+20.8
営業利益	243	3.3	225	450	447	5.4	+203	+83.7
経常利益	247	3.3	220	430	441	5.3	+194	+78.7
中間純利益	132	1.8	114	210	241	2.9	+108	+82.0



2008年3月期 中間期 セグメント別業績

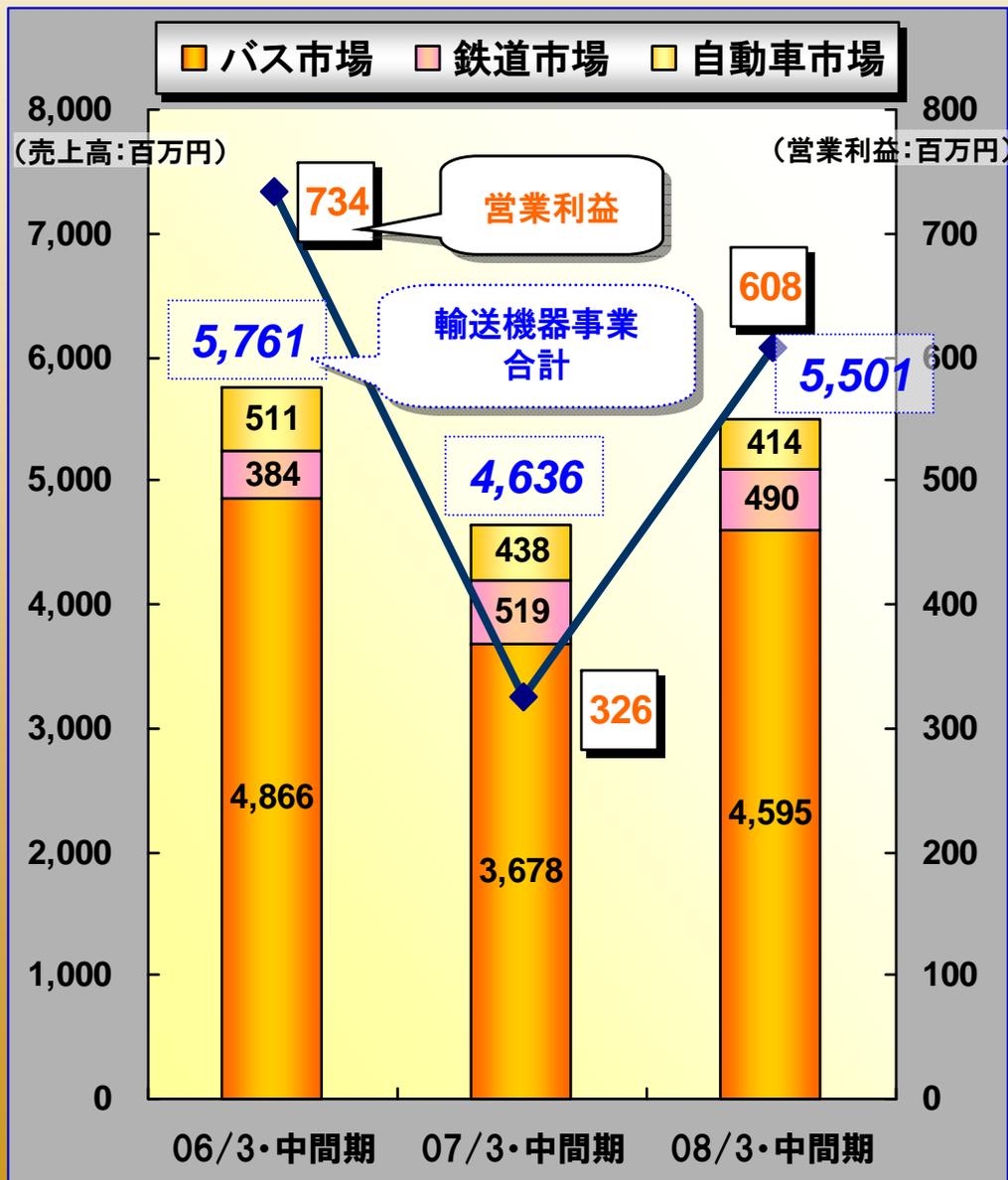
【売上高】	2007年3月期 中間期		2008年3月期 中間期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	4,636	61.8	5,501	65.8	+864	+18.6
S&D事業	811	10.8	738	8.8	△73	△9.0
産業機器事業	2,050	27.4	2,124	25.4	+74	+3.7
連結	7,498	100.0	8,364	100.0	+866	+11.6

【営業利益】	2007年3月期 中間期		2008年3月期 中間期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	326	109.0	608	121.8	+281	+86.4
S&D事業	△48	△16.0	△192	△38.5	△144	-
産業機器事業	20	7.0	83	16.7	+62	+297.2
計	299	100.0	499	100.0	+199	+66.8
消去・全社	(55)	-	(51)	-	△3	△7.1
連結	243	-	447	-	+203	+83.7



中間期 輸送機器事業の業績

輸送機器事業：中間業績の推移



バス市場向け製品

前年同期比：+9億17百万円
 首都圏バス・鉄道ICカード相互利用サービスの開始に伴い、ICカードシステムが大幅増



鉄道市場向け製品

前年同期比：▲ 29百万円
 鉄道用ワンマン機器の減少



自動車市場向け製品

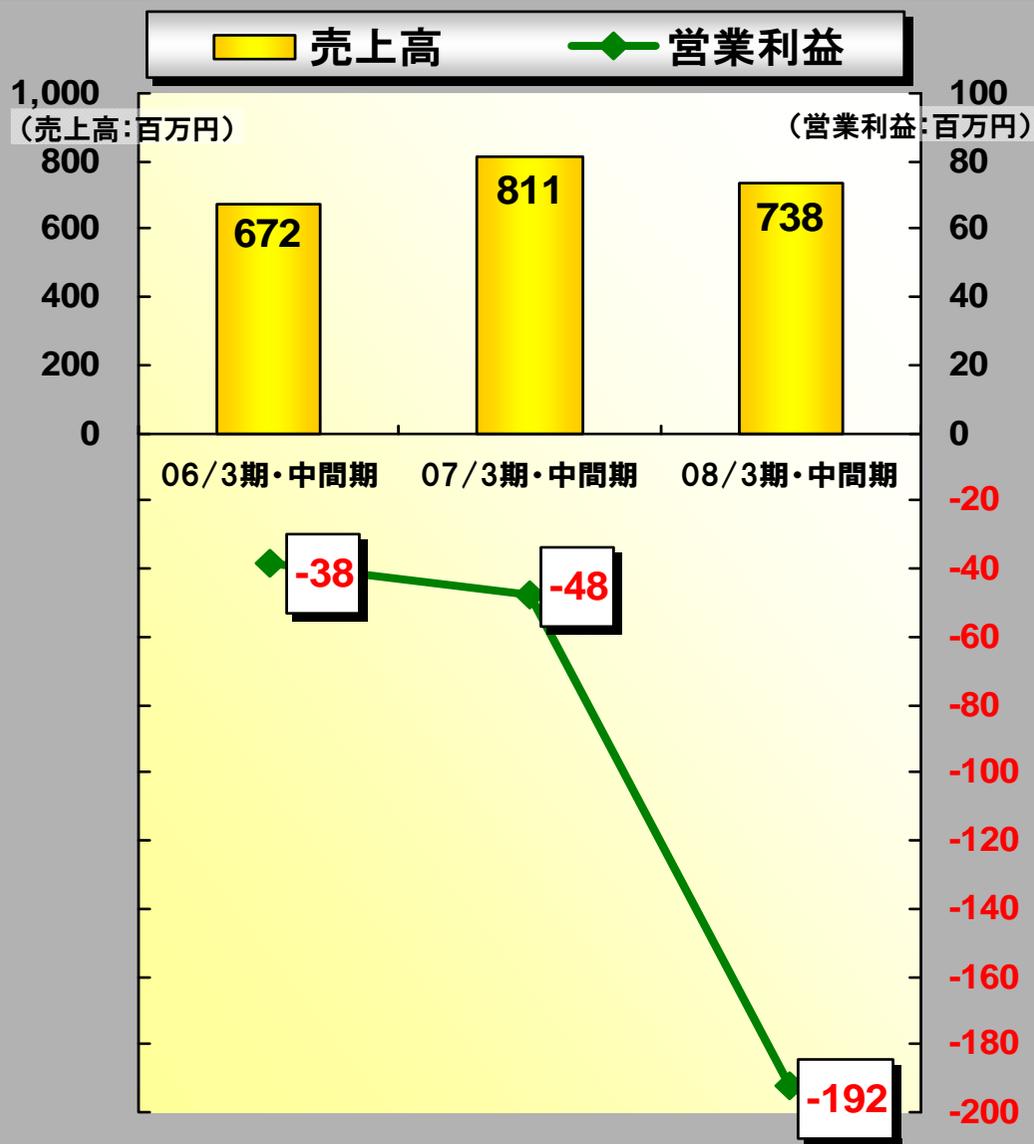
前年同期比：▲ 23百万円
 排ガス規制に伴うトラック買替需要一巡でトラック用蛍光灯の減少



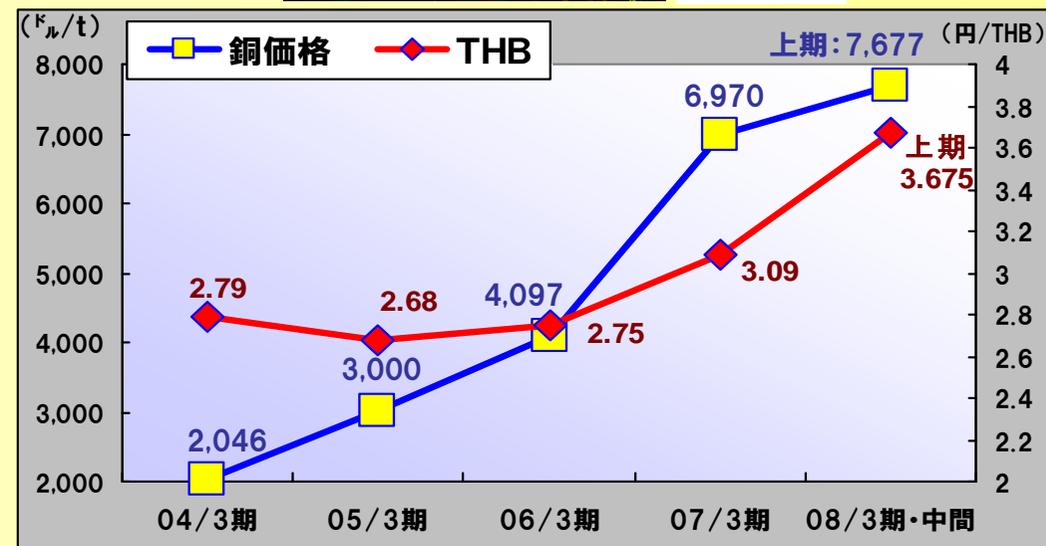


中間期 S&D事業の業績

S&D事業：中間業績の推移



銅価格の高止まりと、タイパーツの高騰が利益を圧迫



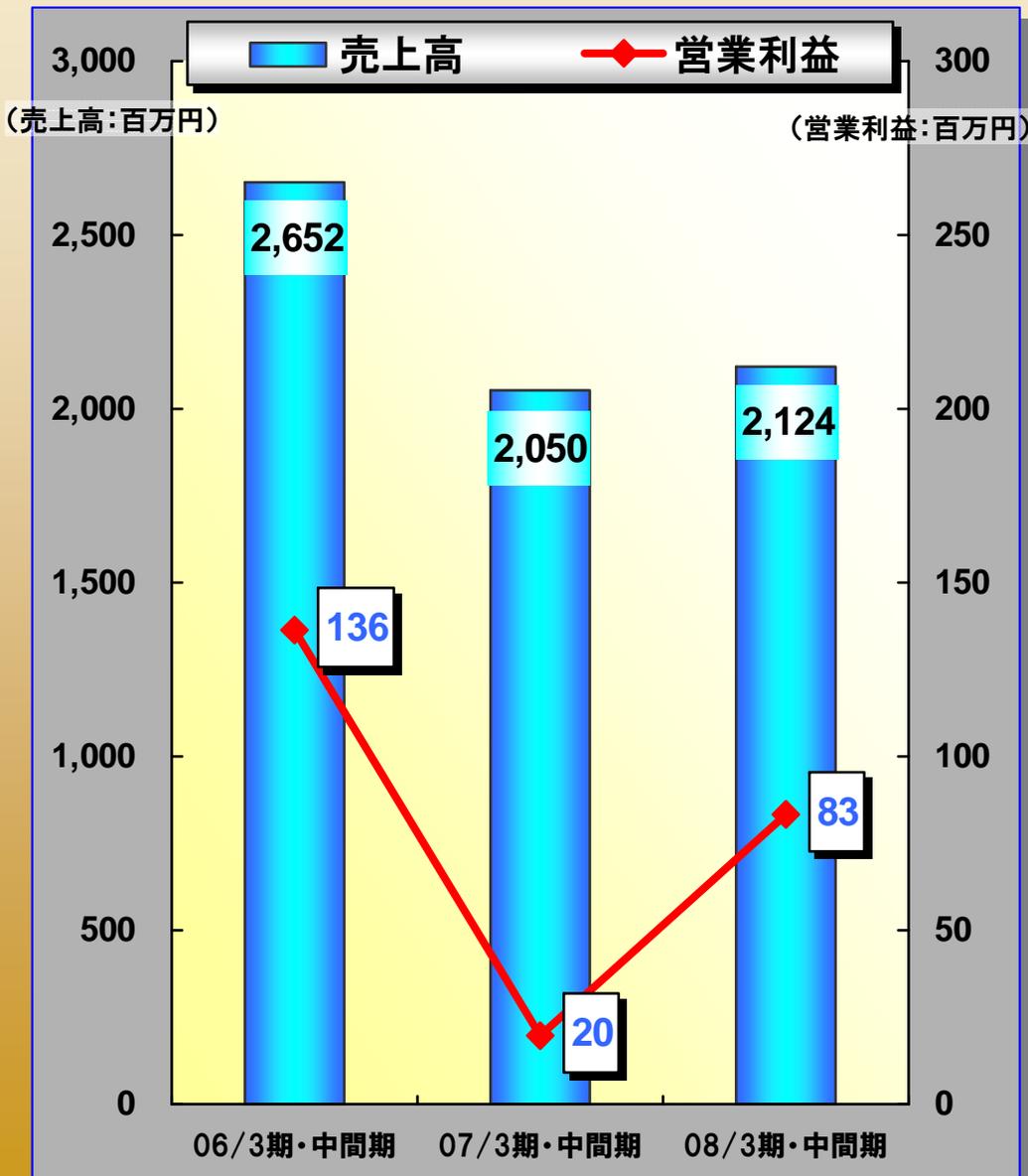
☑ 銅の年間使用量 (※前期07年3月期実績)
S&D事業:245t、産業機器事業:210t

☑ ネオン変圧器の生産をタイで行っており、
パーツ高の進行が利益を圧迫



中間期 産業機器事業の業績

産業機器事業の業績推移



連結子会社レシップ電子の
プリント基板実装、小型液晶パネル組立て
が減少 (前年同期比: ▲3億20百万円)

銅価格の高騰が利益を圧迫

物販共用読み取り端末の納入進む

- 複数規格の電子マネーと携帯クレジットに対応
- 前期の第4四半期より、本格納入開始

フォークリフト用充電器が堅調に推移



中間期 連結損益の状況

	2007年3月期 中間期		2008年3月期 中間期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	7,498	100.0	8,364	100.0	+866	
売上総利益	1,753	23.4	2,117	25.3	+364	
販売費及び 一般管理費	1,509	20.1	1,670	19.9	+160	首都圏ICカード初期導入に伴う費用等: +49百万円、 人件費: +38百万円
営業利益	243	3.3	447	5.4	+203	
営業外収益	35	0.4	31	0.4	△3	
営業外費用	31	0.4	37	0.5	+5	為替差損: +5百万円
経常利益	247	3.3	441	5.3	+194	
特別利益	41	0.5	5	0.1	△36	有価証券売却益減: △38百万円
特別損失	24	0.3	7	0.1	△17	前年同期に計上した連結子会社THAI LECIPの取引先債務保証に係わる和解金支払いが終了: △18百万円
中間純利益	132	1.8	241	2.9	+108	

中間期 連結貸借対照表の主な増減項目

		2007年3月期 期末		2008年3月期 中間期			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	8,529	74.0	8,238	73.6	△291	下期の生産に係わる材料調達等たな卸資産の増加: +697百万円 現預金の減少: △494百万円、売上債権の減少: △468百万円	
固定資産	3,003	26.0	2,960	26.4	△43		
資産合計	11,533	100.0	11,198	100.0	△334		
流動負債	6,167	53.5	5,740	51.3	△427	材料先行手配に伴う仕入債務の増加: +329百万円 短期借入金の減少: △493百万円 未払い法人税の減少: △264百万円	
固定負債	957	8.3	885	7.9	△71	長期借入金の減少: △69百万円	
負債合計	7,124	61.8	6,626	59.2	△498		
純資産合計	4,408	38.2	4,572	40.8	+164		
負債・純資産合計	11,533	100.0	11,198	100.0	△334		



目次

1. 事業内容

2. 2008年3月期 中間期 連結業績の概要

3. 重点課題・事業戦略の概要

4. 2008年3月期 通期の業績見通し



中期経営計画「PG2009」

—2007年度～2009年度：中期経営計画—

【 PG2009 】

PG=Powerful Growth 「力強い成長力」

新規基幹商品の育成

海外事業戦略の再構築

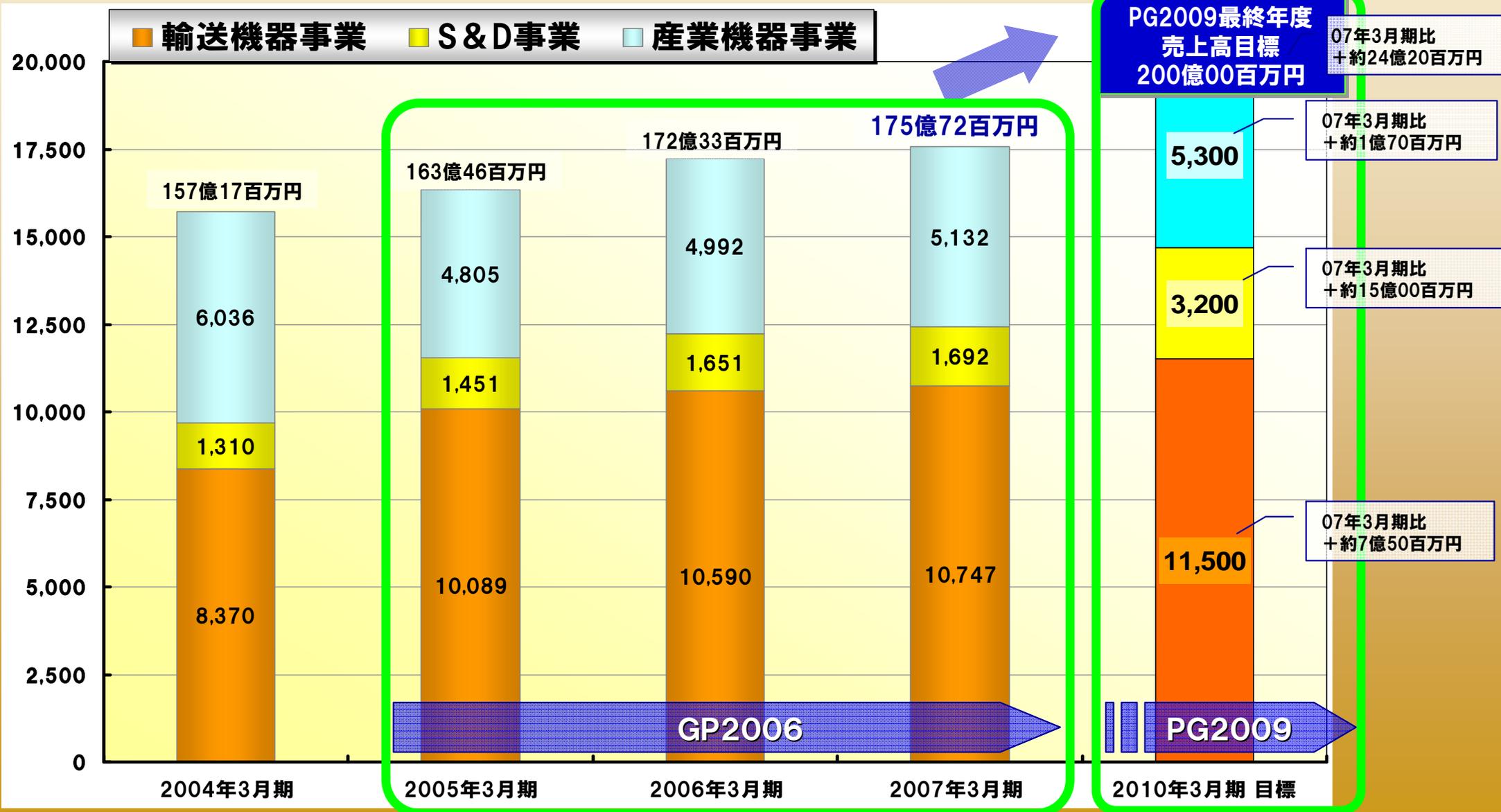
コスト競争力の強化

【経営目標】	2007年3月期 実績	2010年3月期 目標	増減額	増減率
売上高（百万円）	17,572	20,000	+2,427	+13.8
経常利益（百万円）	1,191	2,000	+ 808	+67.9
経常利益率（%）	6.8	10.0	—	+3.2



中期経営計画「PG2009」

セグメント別売上高構成





PG2009:事業別の戦略

事業環境

輸送機器事業

- 路線バスの台数は、横這いで推移
- 利便性向上に向けた取り組み
- 交通系ICカードの拡大

S&D事業

- 国内ネオンサイン市場の縮小
- LED、LCD表示が増加傾向
- 銅価格、タイパーツ高騰の影響

産業機器事業

- 物販分野で広がる電子決済
- 電動車の市場拡大
- 小型液晶パネルの海外生産加速

重点戦略

- ICカードシステムの積極展開
- OBC(On Bus Computer)の拡販
- バス用運賃箱のシェア拡大
- 海外市場への拡販

- 銅価格高騰への対応
- 米国市場への拡販継続
- 新たな事業領域の拡大

- 物販共用読み取り端末の拡販
- 充電器の用途開拓
- プリント基板実装事業の拡大

持続的成長



輸送機器事業の戦略

【 好調続く、バス市場向け製品の拡販 】

○路線バスの台数は、横這いで推移(約58,000台～59,000台)するも、
当社のバス市場向け製品の売上は拡大基調

《バス市場向け製品の売上推移》

05/3期:7,551百万円 ⇒ 06/3期:8,467百万円 ⇒ 07/3期:8,589百万円

☞ ICカードシステムの需要拡大

☞ 運行の効率化・乗客の利便性の向上に寄与する付加価値製品の開発

① バス用ICカードシステムの積極展開

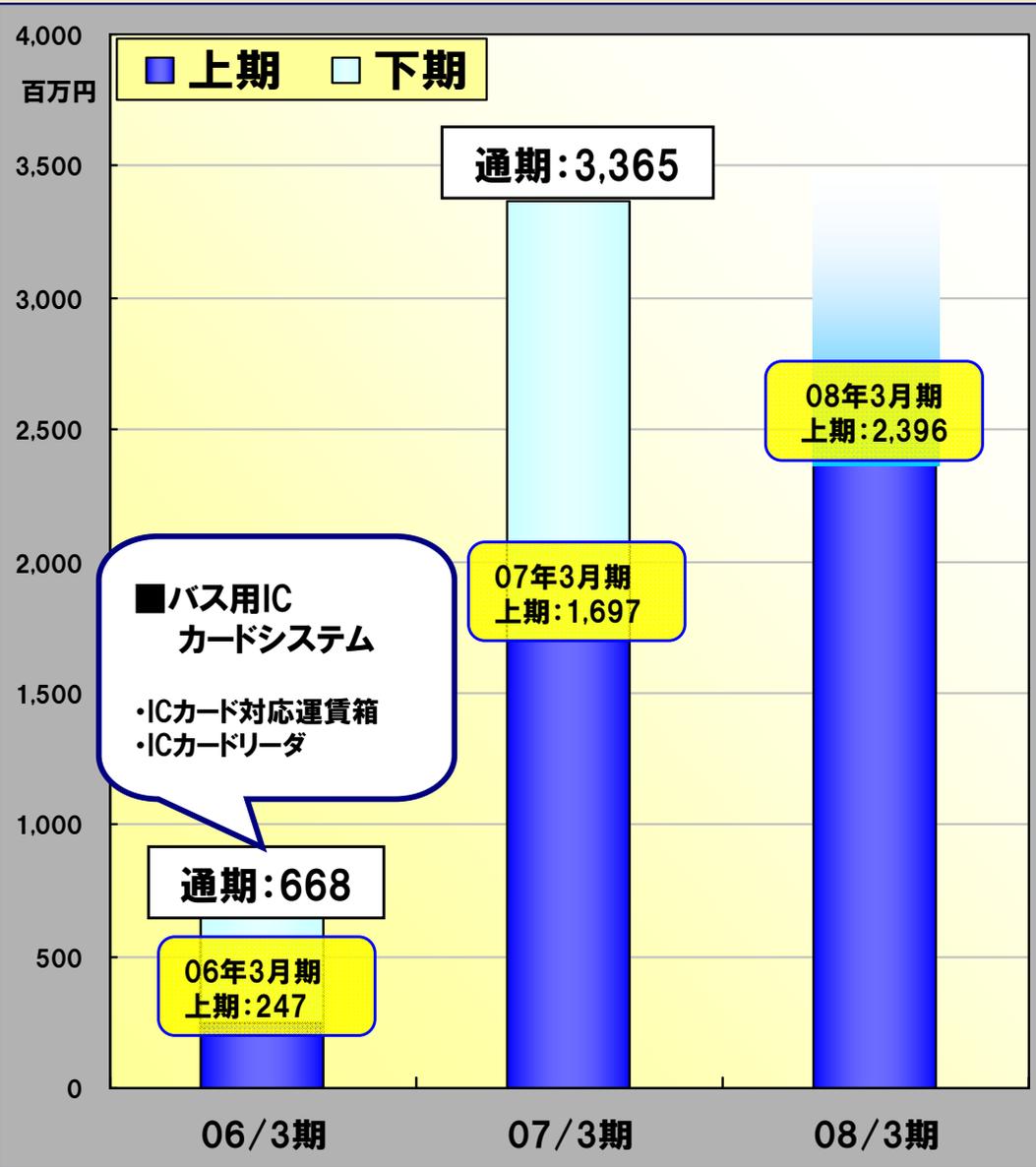
② 新商品・OBC(オン・バス・コンピュータ)システムの拡販

③ 主力製品・バス用運賃箱のシェア拡大

④ 海外市場への拡販推進

事業別の戦略：輸送機器事業

① 『バス用ICカードシステム』の積極展開



▶ **首都圏バス・鉄道ICカード相互利用サービス開始**

☑ **引き続き、首都圏向けへの納入推進**

▶ **全国的な普及拡大が見込まれる**



バス用ICカードシステムのトップメーカーとして、強固な地位を築く



事業別の戦略：輸送機器事業

●【ご参考】：バス用ICカードシステム：導入実績

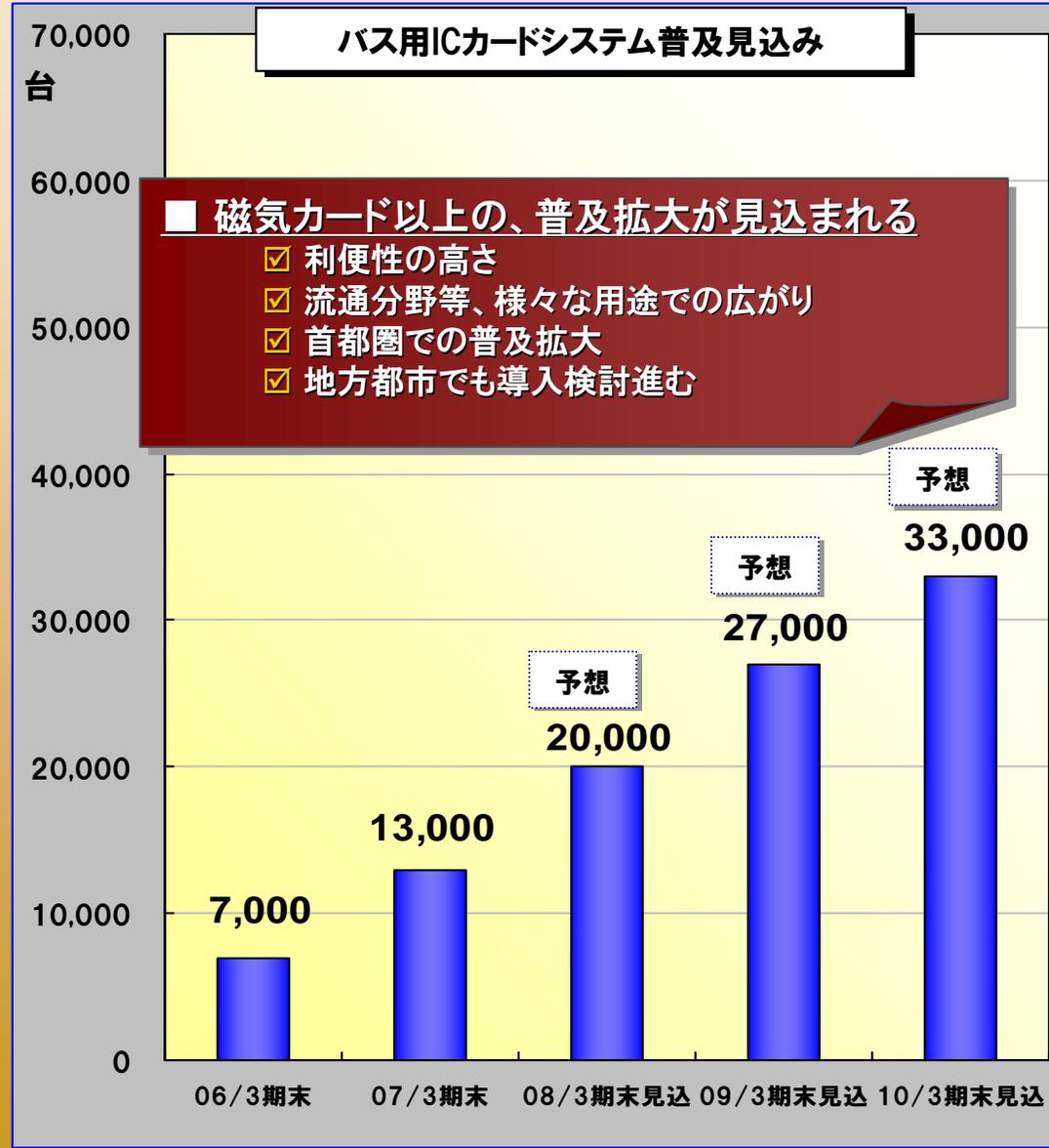
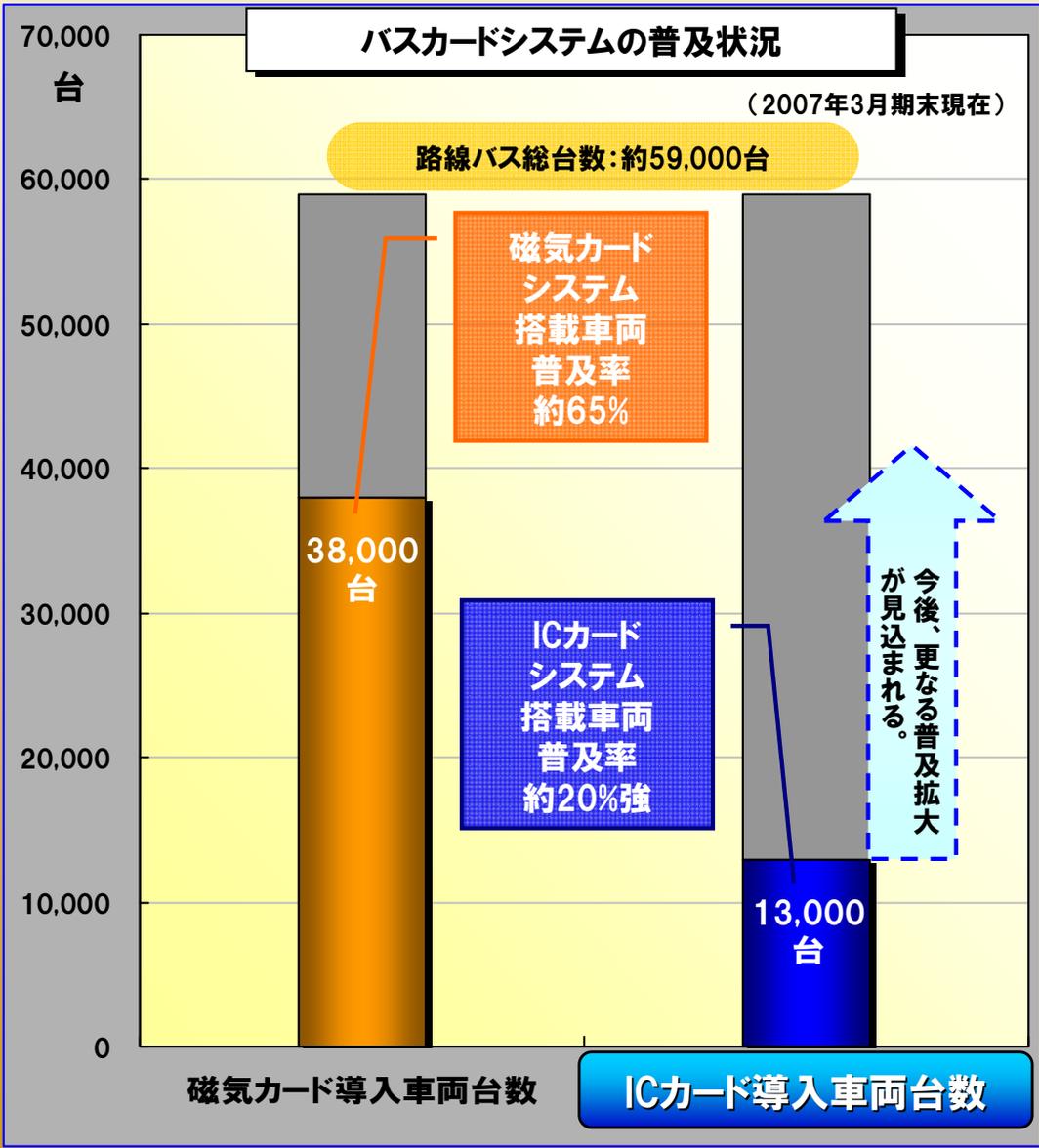
全国の主要納入事業者





事業別の戦略：輸送機器事業

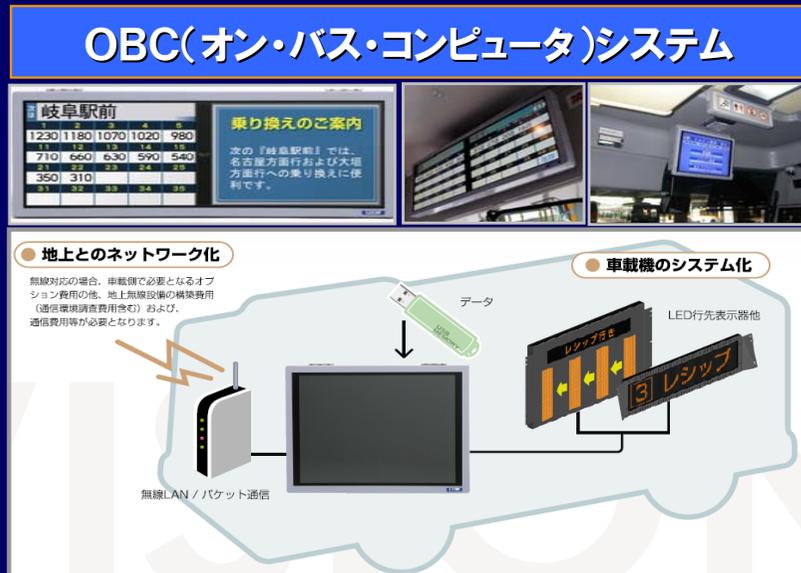
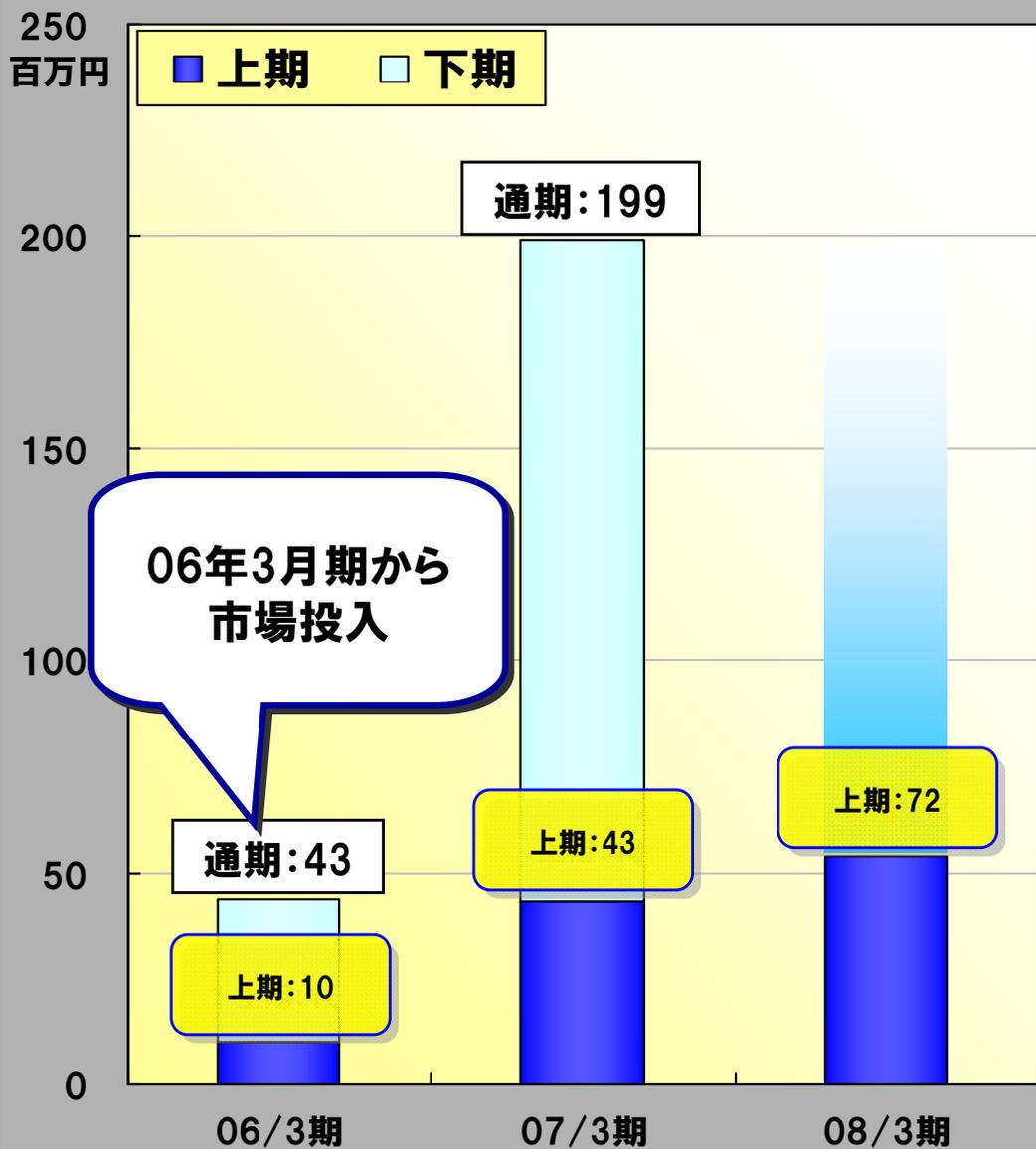
●【ご参考】：バス用ICカードシステム：普及状況について





事業別の戦略：輸送機器事業

② 新商品『OBCシステム(バス用液晶表示器)』の拡販



▶ パソコン機能を搭載した液晶表示装置

- ☑【乗客の利便性向上】 運賃、路線案内、動画広告等様々なコンテンツの液晶表示が可能に
- ☑【バス会社の業務効率化】 バス車載機器のデータ(運賃データ、表示データ等)を一元管理・集中制御
- ☑ 将来的には、車外と車内の機器をオンライン化リアルタイムでのデータ更新、ニュース配信



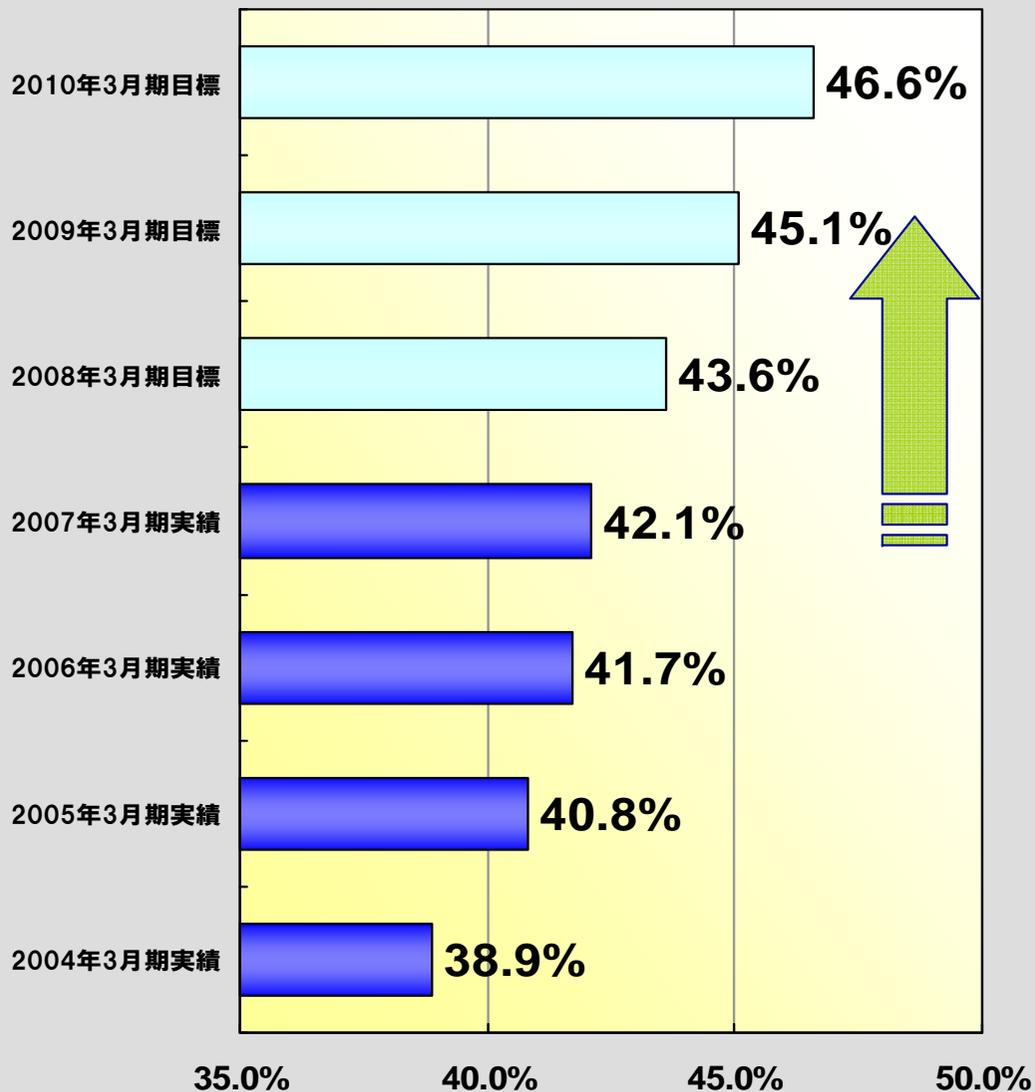
機器の連動化メリットを活かした他製品の拡販



事業別の戦略：輸送機器事業

③ 主力製品・『バス用運賃箱』のシェアアップ

バス用運賃箱のシェア(当社推計)



薄型運賃箱の投入

従来型



新モデル：薄型運賃箱



▶ 薄型運賃箱の投入による差別化戦略

- ☑ バスの車内という限られたスペース
⇒ 運賃箱の薄型化に対するニーズ
- ☑ 新モデルの薄型運賃箱：従来の機能はそのままに、
20%以上の薄型化・軽量化を実現

運賃箱のシェア拡大を図る

事業別の戦略：輸送機器事業

④ バス市場向け製品：『海外市場への拡販』

▶ 米国市場開拓

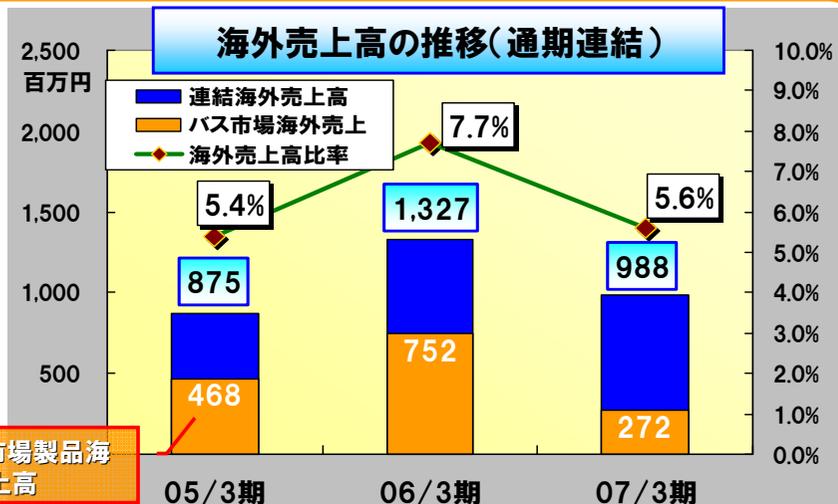
● バス市場向け製品：

- ☑ 現状、アジアの先進地域への販売が中心
- ☑ 米国市場での販売実績なし



バス市場向け製品の米国市場参入をめざす。

海外市場への拡販により、次なる成長ステージへ
目標：連結海外売上高比率 20%以上

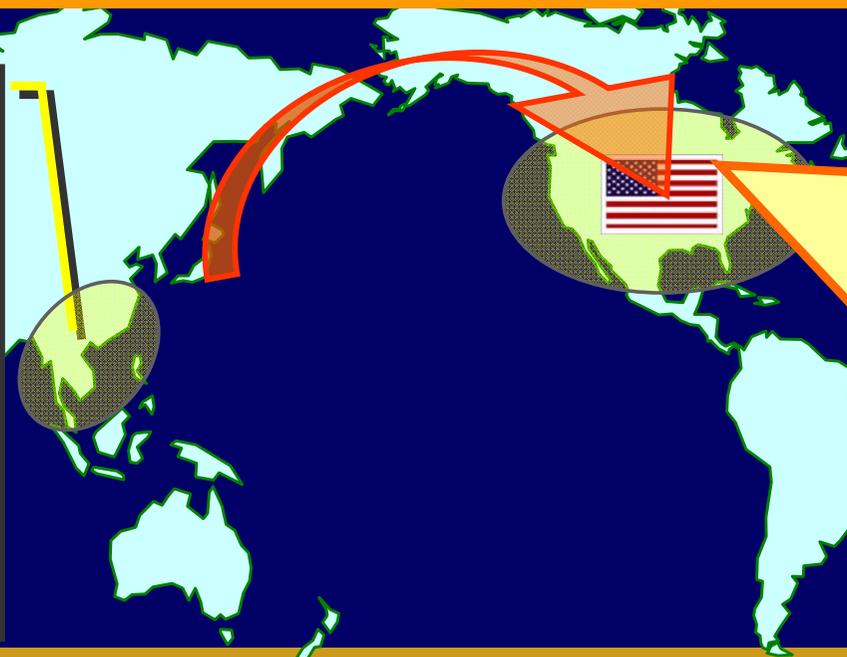


《現状》

バス市場製品海外売上高
：アジア地域への販売が中心
：2億72百万円(07/3期通期実績)

《これまでの主な納入実績》

- ◎香港
：ICカードリーダー
- ◎シンガポール
：バス総合運行管理システム、
：磁気カードシステム
- ◎マレーシア
：磁気カードシステム
等々



《米国市場参入への取り組み》

- ・現地販売コンサルタントと契約
- 米国でのマーケティング調査開始

OBC(液晶表示器)やLED式行先表示器などの製品での、参入をめざす。





■ S&D事業の戦略

【 業績回復に向けた事業の建て直し 】

- 銅価格の高騰、タイパーツの高騰が利益を圧迫
- 国内ネオンサイン市場の縮小
- 成長性の低い分野、不採算分野を見直し、事業の選択と集中を加速
➡商品ポートフォリオのリファイン

① 屋外蛍光灯看板用電子安定器の育成

② 米国市場：拡販継続と、電子式商品の積極展開

③ ネオンの新たな用途開拓と、LED市場の開拓



事業別の戦略：S&D事業

①『屋外蛍光灯看板用電子安定器』の育成 ～銅価格高騰への対応～



巻線式ネオン変圧器
主要部材：銅・鉄

銅の使用量/1台当たり	
巻線式ネオン変圧器	屋外用電子安定器 電子式ネオン変圧器
約1kg	約0.03kg



屋外用電子安定器・電子式ネオン変圧器
主要部材：電子部品

▶ 銅をほとんど使用しない電子式(インバータ式)の製品を拡充

屋外蛍光灯看板用電子安定器

- ☑【省エネルギー・地球環境対応】⇒ 消費電力20%～30%の削減効果
- ☑【成長が見込まれる未開拓の新たな市場】⇒ 普及率は、現状、5%程度

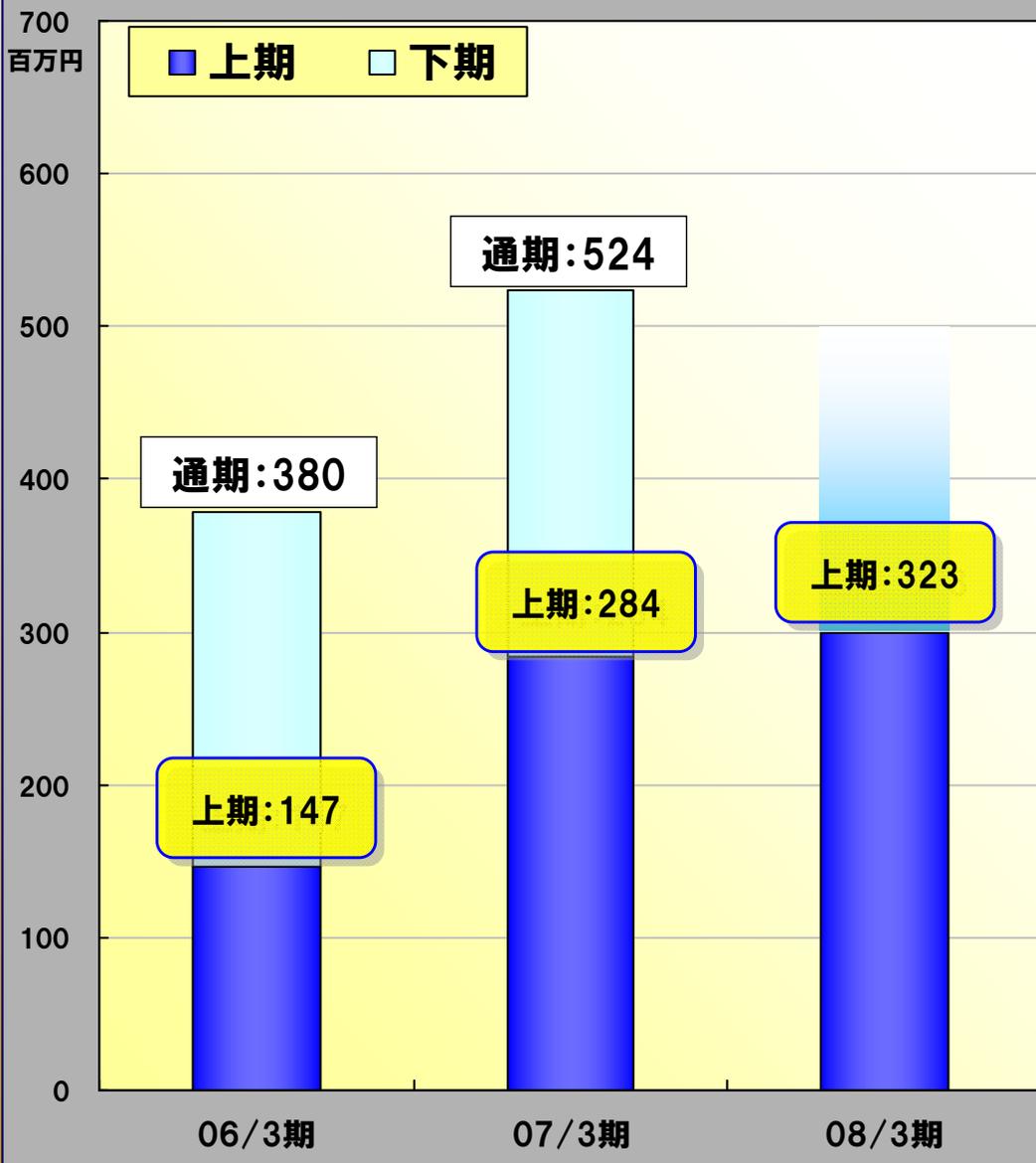
➡ 省エネ効果のアピールにより、
コンビニエンスストアチェーン、ファーストフードチェーンなどへ拡販





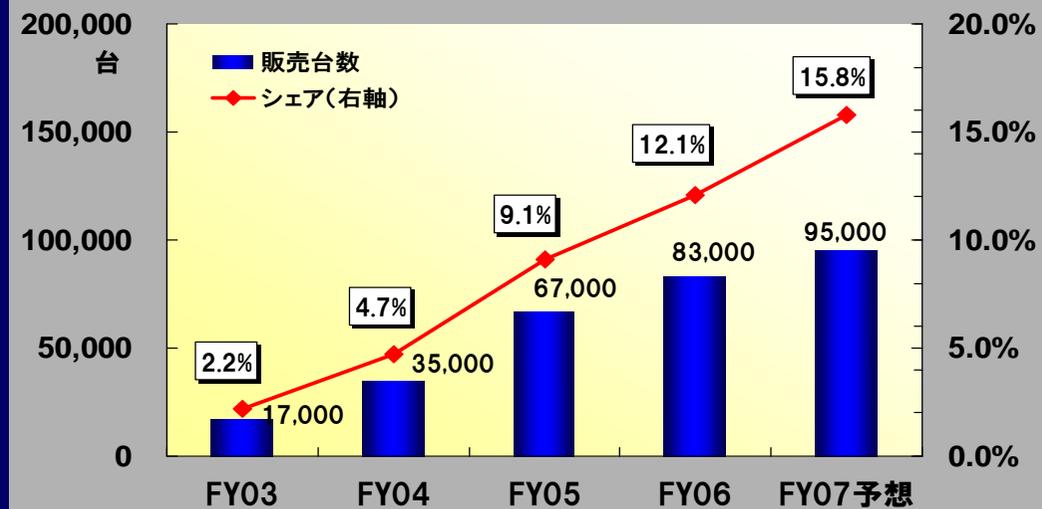
事業別の戦略：S&D事業

② 『米国向けネオン変圧器』の拡販継続



▶ 巨大市場での拡販戦略推進

- ☑ 国内の約7倍の市場規模
- ☑ 品質の高さが評価され、着実に販売台数を拡大
- ☑ 米国市場にも、電子式の商品を積極展開





事業別の戦略：S&D事業

③ 『ネオンの用途開拓』と、拡大続く『LED市場の開拓』

▶ **建築・施設照明用途を開拓**

- ☑ 電源・光源・調光コントローラをパッケージ化し、導入も運用も容易に



ネオンの新たな用途を提案

東京・銀座
MIKIMOTO Ginza2ビル



韓国・ソウル
三星火災保険ビル



東京・銀座
マロニエゲート



展示会のブース照明

▶ **屋外用LED電源を製品化**

- ☑ 新たなサイン光源として普及が進むLED
- ☑ これまでの電源開発技術、ネオン変圧器の充填技術を活かし、屋外用LED電源を開発
- ☑ 他社製品との差別化：樹脂で充填を行うことにより、優れた防水性・耐久性を実現



今後も拡大が見込まれるLED市場を開拓

屋外用LED電源





■ 産業機器事業の戦略

【 新たな事業展開の推進と、 既存事業の用途開拓、顧客基盤の拡大へ 】

- 電子マネーの普及加速により、物販共用読み取り端末のニーズ拡大
- 環境への対応から、電動車の普及拡大
- 連結子会社レシップ電子のEMS事業が低迷←受託先の事業再編・海外への生産移管の影響

① 物販共用読み取り端末という新たなビジネスの推進

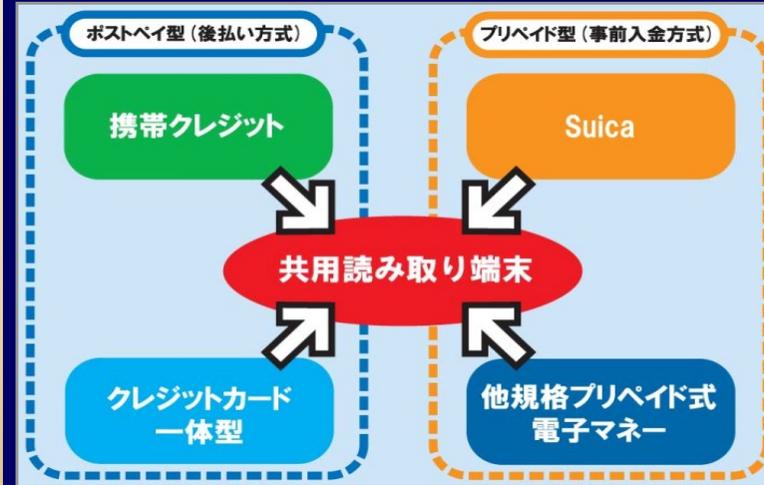
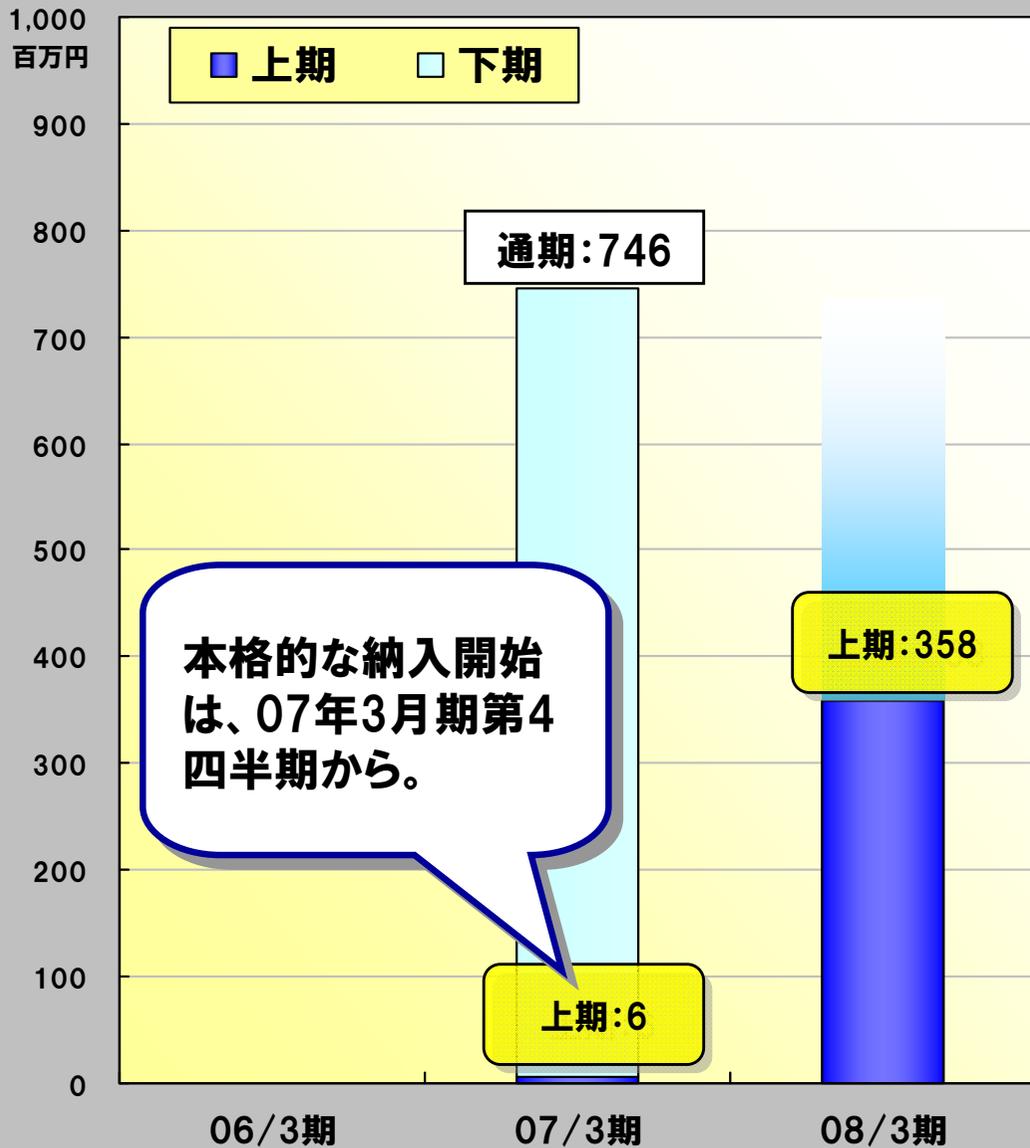
② 充電器の用途開拓

③ プリント基板実装事業の顧客基盤拡大



事業別の戦略：産業機器事業

①『物販共用読み取り端末』の事業推進



▶ 物販分野で広がる電子マネー

- ☑ これまでの交通系ICカード、香港・物販用カードリーダーの納入実績



Suica電子マネー、他規格電子マネー
共用読み取り端末の、共同開発パートナーに

※「Suica」は東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。



事業別の戦略：産業機器事業

② 『充電器』の用途拡大

▶ バッテリー式フォークリフト用充電器で、
トップシェアを獲得



これまでのノウハウを活かし、小型充電器の
分野で、他への用途展開を検討

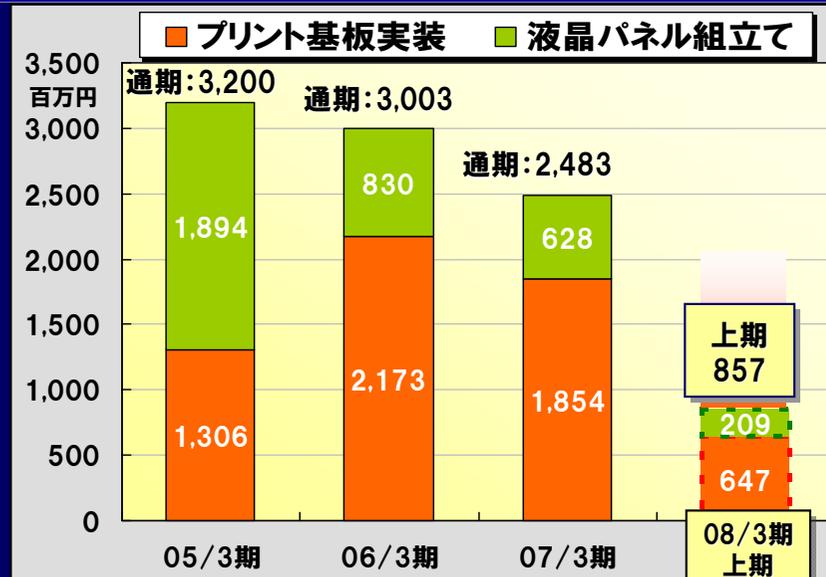


③ 『プリント基板実装事業』の顧客基盤拡大

▶ 受託先の事業再編、海外生産シフトの影響



新たな顧客基盤の開拓





目次

1. 事業内容
2. 2008年3月期 中間期 連結業績の概要
3. 重点課題・事業戦略の概要
4. 2008年3月期 通期の業績見通し

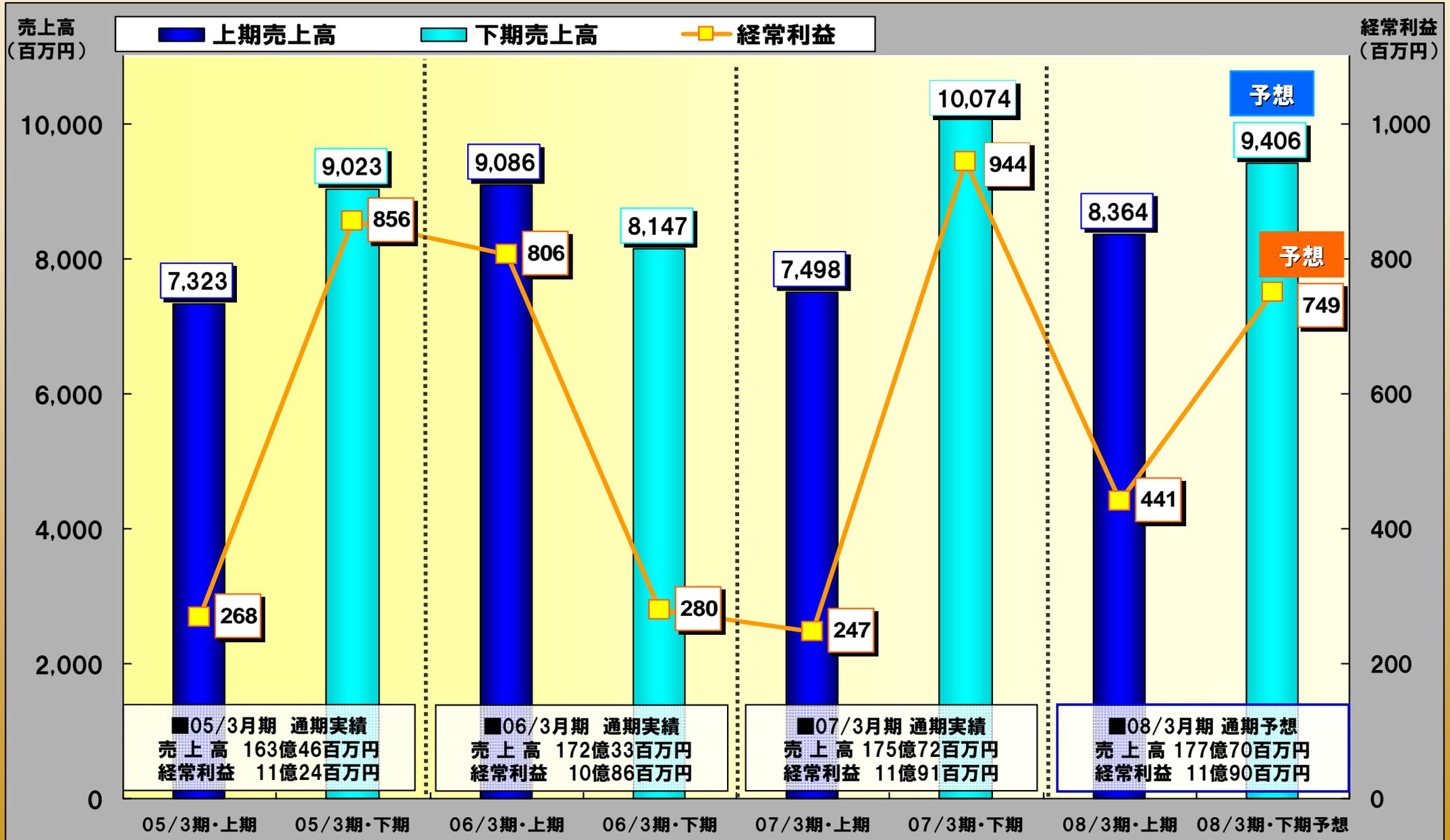


2008年3月期 連結業績予想

2008年3月期 連結業績予想 【07年3月期実績との比較】	2007年3月期 実績 (百万円)	構成比 (%)	2008年3月期 業績予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	17,572	100.0	17,770	100.0	+197	+1.1
営業利益	1,189	6.8	1,200	6.8	+10	+0.9
経常利益	1,191	6.8	1,190	6.7	△1	△0.1
当期純利益	668	3.8	690	3.9	+21	+3.1
E P S (円)	104円68銭	—	107円97銭	—	+3円29銭	+3.1

輸送機器事業		<ul style="list-style-type: none"> ➤ バス用ICカードシステムが好調に推移
S&D事業		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 銅価格、タイパーツの高止まり懸念 ➤ 屋外看板灯用電子安定器の展開が遅れる ➤ 国内ネオン変圧器の販売低迷
産業機器事業		<ul style="list-style-type: none"> ➤ レシップ電子・プリント基板実装の減少幅拡大 ➤ 物販共用読み取り端末が堅調に推移

上期・下期別業績の推移





■ 配当方針

- 安定配当の維持・継続
- 配当性向は、内部留保とのバランスを図りながら、今後、20%を目標に高めていく

2006年3月期実績	2007年3月期実績	2008年3月期予想
12円50銭	15円00銭	15円00銭
連結配当性向:13.0%	連結配当性向:14.3%	連結配当性向:13.9%
<ul style="list-style-type: none"> ・普通配当:10円00銭 ・記念配当: 2円50銭 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の記念配当:2円50銭を落とすことなく、普通配当に組み込み ・増益決算を勘案し、 2円50銭の増配 ⇒普通配当:15円00銭 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での業績予想を勘案し、普通配当:15円00銭を維持



【ご参考】主な連結経営指標の推移

主な経営指標 の推移	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期 予想
売上高(百万円)	15,717	16,346	17,233	17,572	17,770
営業利益(百万円)	400	1,122	1,089	1,189	1,200
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.8
経常利益(百万円)	390	1,124	1,086	1,191	1,190
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7
当期純利益(百万円)	△100	654	622	668	690
当期純利益率(%)	△0.6	4.0	3.6	3.8	3.9
総資産(百万円)	10,267	10,529	10,512	11,533	—
純資産(百万円)	1,888	2,519	3,895	4,408	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.2	38.2	—
EPS(円)	△18.05	107.70	96.29	104.68	107.97
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

LECIP

レシップ株式会社

【資料お問合せ先】

レシップ株式会社

IR担当役員：常務取締役管理本部長 山口 芳典

電話番号：(058)323-7647

IR担当者：総務部兼経営管理部 野村 武史

電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。